

明野高の母豚猛暑から守る

三重化学工業と研究成果発表

明野高校生産科学科(伊勢市)は、保冷剤や医療用冷却剤メーカー「三重化学工業」の新商品企画を担う「ミエラボ」とコラボレーションし、同校で飼育する



①母豚の首に保冷剤を巻く生徒＝明野高提供
②成果発表をする(左から)中山遥茄さん、南野さん、神野教諭＝松阪市大口町の三重化学工業で

母豚用の暑熱対策商品の開発に取り組んできた。11月29日には、松阪市大口町の同社で社員らに向けて成果発表会があった。

の「伊勢あかりのぼーく」を飼育しているが、近年の猛暑で、6頭いる母豚の出産頭数の低下が懸念されている。三重化学工業は犬や猫用の保冷剤を手がけており、その知見を生かそうと2023年1月からコラボし、豚用の保冷剤の製作を



研究してきた。

発表会で、代表の3年生2人は、床に敷くタイプと首に巻くタイプ、柵にぶら下げるタイプの3種の保冷剤を考案したことを説明。首に巻くタイプでは、巻くときに豚が暴れて危険なごとなど課題を挙げた。一方で、保冷剤を当てることで、一時的に食欲が戻るなど、一定の効果も見られたと振り返った。

3年の南野りりあさん(18)は「豚舎は暑いので保冷剤を置くことで、餌を食べない豚も食べるようになった。もっと研究を重ねれば、良い成果が出ると思う」と話した。同科の神野亮太教諭(33)は「豚には汗腺がないので、冷却する必要がある。出産への影響に関するデータまで取れたらなおよかった」と振り返った。同社は今後、より肥育規模の大きい畜産農家を研究対象に、商品開発を検討していく。(芦原遼)